

1. 学校経営

2024年12月に策定した第3期中長期計画を踏まえた活動を推進する。

「人を学ぶ、地域を創る」大学として、主にダイバーシティへの対応力やインクルーシブな教育力に優れた人材の育成に重点を置く。今後の大学教育を取り巻く状況に対応し、コンパクトな組織形態で柔軟にマネジメントができるように改革を推進する。また、本学の強みの明確化と特色の強化に向けて、FD・SDの研修を確実に推進し、ステークホルダーからの意見聴取を積極的に取り入れる。

また、令和6年度には文部科学省の補助金『少子化時代を支える新たな私立大学等の経営支援』の【メニュー1：キラリと光る教育力】に採択された。令和7年度から5年間補助金が給付されるもので、入学定員を満たし、大学経営の自走化に向けた活動を推進していく。

加えて、近年の物価上昇により大学の運営コストが増加しているため、授業料の引き上げの検討も進める。具体的には、教育環境の充実を図るための必要経費の増加や他大学との競争力を維持するための資金確保、学生への経済的支援策とのバランスを考慮した授業料設定を検討する。

短期大学部については、今後の在り方について検討し、2025年度内にその結論を得る。

2. 不断の教育改革の取り組み

どこよりもあたたかい指導に基づく教育を行う大学を目指し、「きめ細かな教育体制」「個別指導の充実」「学びの成果の振り返り」「自己肯定感の醸成」などを指導の軸に、①学びの質保証と達成度の把握、②授業外学びの教育支援、③正課外活動の充実、④退学者及び留年者の極小化に取り組む。

①については、引き続き、授業や学修成果等のアンケート、人間科学部における入学時アセスメントテスト、リメディアル科目の開講等を実施する。さらに自己評価と成績評価を可視化した「学修到達度シート」の教員によるセメスター当初のオリエンテーションやクラスミーティング、個別面談等での活用を推進し、DPに係る到達目標の育成を図る。また、FD・SDを活用して各種アンケートの点検・評価を実施する。

②については、学修の必要性を育むため、引き続き、GPA運用要項に基づき、担任による個人面談を実施するが、学生へGPAについて再認識させ、当該要項の実質化を図るとともに、進路を踏まえた基礎学力の育成を図る。また、学修の再確認の場として学修支援センターやオフィスアワーを活用できることを意識させる。

③については、引き続き、日常的に各部署・センターで学生個々の要望に速やかに対応するとともに、学生全体の要望を吸い上げる学生連絡協議会を開催する。さらに

大学生活へのモチベーションを高めるため、学生自治会と連携し、学生主体の活動に対しても教職員が積極的に支援する。

④については、引き続き、LGBT等を含め教育的配慮を求める学生への支援を全学的に丁寧を実施する。また、退学者1.5%未満を目標に、欠席状況の確認によりセメスターの早い時期に修学意欲低下者を洗い出すとともに、担任の面談により原因を把握し、保護者と連携を密にして、速やかに対応策を決定する。

3. 学科改組・教育研究の充実・発展

人間科学部「人間関係学科」は、令和6年度にAC期間が終了したことから、令和7年度はこれまでの4年間を検証し、その魅力度を高めるために、教育研究体制の更なる充実化を図る。人間科学部「子ども教育学科」と短期大学部「子ども学科」は、各学科の特色を活かしながら教育研究の充実・発展に努める。募集停止した「現代福祉学科」が担ってきた介護福祉士養成の機能は「人間関係学科」に移管するとともに、令和6年度に設置した「福祉推進センター」の事業内容についても拡充を図る。

また、前述の【キラリと光る教育力】の補助金を活用して、地域から期待されているインクルーシブ教育力を有する保育・教育系人材、ダイバーシティ対応力を有する福祉系や企業系人材等の養成を進める。そのため、現教育課程を特別支援学校教諭や公認心理師の資格、そして社会福祉士と介護福祉士のダブル資格の取得を可能なものに改革する。

研究開発については、研究開発センターを核として、外部資金獲得のための情報を収集・提供するとともに、本学の特色を活かした研究の推進を図る。また、研究倫理についての認識を深めることに努める。

4. 進路支援

入学者全員がめざす進路を叶え、さらに進路先で実力を十分発揮できるように、進路支援センターと各学科、各課、各センターが連携し、学生一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行う。これまでと同様に、領域ごとに毎週実施している進路ガイダンスを継続する。また、個別相談・各種セミナー（模擬面接会）、勉強会等もこれまで以上に強化する。

就職率については、第3期中長期計画に掲げた「2020年度から2024年度までの平均実績以上の就職率」を維持する。

大学院希望者へは学内説明会など、3年次編入等進学希望者へは大学教員による説明会や編入学生との座談会などの個別支援を丁寧に行う。

5. 富澤学園ブランド力強化

ブランド力を高めるために、本学の認知度をあげる。そのために本学がこれからど

のようなビジョンを持って活動を推進するのかを適時に発信する。また、教育内容や地域貢献等において本学が新たな展開を推進していくイメージを学園と一体的に発信することを目指す。

地域貢献強化策として、2024年度には山形市と南陽市の2市と連携協定を締結した。今後互いの連携・協力体制をさらに強め、保育、教育、福祉、学術文化等の分野で連携・協力し、各分野での交流活動を深めていく。

また、東北文教大学山形城北高等学校からの入学者に対する奨学金を継続し、地元進学のメリットをアピールしていくことで、富澤学園のブランド力の強化を目指す。

6. 定員充足率の向上

2024年度入試から変更した公募推薦・総合型選抜の選抜方法について、引き続き、受験生に「高校生活で学んだこと、経験したことを活かせる入試」であることを広報で強調する。入試情報に限った情報発信ではなく、本学の年間を通じての多様な活動を継続的に発信することで早期に高校生に本学を認知してもらえるように、発信方法等の工夫に努める。

入試広報活動を着実に実施し、2024年度レベルの志願者数の確保を目指す。同時に、大学全体の広報を展開する「地域連携・総合企画センター（仮称）」を設置し、人材育成や地域貢献への評価を高めることで地元からの志願者数を増やし、入学定員の確保を目指す。

7. 教育環境の充実・整備

教育研究用備品等の充実を図るとともに、教育研究環境を継続して整備する。特に2025年度は、教育用パソコンと5号館の空調設備、図書館システムの更新を実施する。また、老朽化している正面玄関の看板と食堂内厨房設備を更新するとともに、ピアノ練習棟の屋根の補修工事を行い、広報効果と安全性を高める整備を行う。さらに、2027年度の蛍光灯製造中止を踏まえ、学生利用率の高い施設からLED化工事を行う。

情報公開→4 上記以外の情報→中長期計画等→「東北文教大学・東北文教大学2019年度」を添付データのように更新をお願いします。